

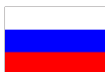
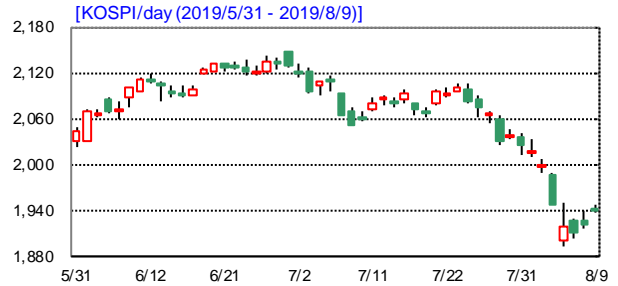


【韓国】 総合指数は 3.0%安と 3 週続落、一時は 3 年半ぶり安値

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 3.0%安と 3 週続落。通商問題をめぐる米中や日韓の対立激化が韓国経済に与える悪影響が引き続き警戒されたほか、韓国ウォン安を受けた資金流出懸念も重荷となった。週明け 5 日が 2.5%超の大幅安となり、7 日まで 6 営業日続落。16 年 2 月以来、ほぼ 3 年半ぶりの安値を連日にわたり更新した。節目の 1900 ポイントに近づく場面もあった。一方、週後半の 8-9 日は反発。日本政府が韓国に対して半導体材料の輸出を一部許可した動きを受け、日韓摩擦に対する過度な警戒感が後退し、値ごろ感を意識した買いが優勢となった。今週は引き続き売られすぎ感から買い戻しが入りやすいものの、通商問題をめぐる米中や日韓の動きをにらみ神経質な展開か。国内では 7 月の金融統計や雇用統計などが発表される。

▼指数チャート

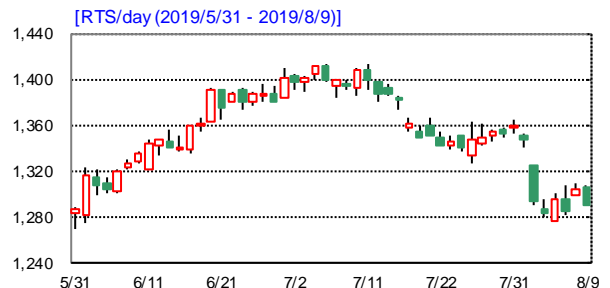


【ロシア】 RTS 指数は 0.3%安と 5 週続落、今週は米中摩擦を受け神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.3%安と 5 週続落。人民元安や米大統領の発言などを受けて米中貿易戦争の激化懸念が再燃した。欧州市場が幅広く下落する中、米中関係をにらんで上昇と下落を繰り返した。米国による対ロ追加制裁懸念の後退や中国が発表した 7 月の輸出の予想外の増加が好感され、上昇する場面もあった。ただ、9 日は原油安が嫌気されたほか、米国の中国のファーウェイと取引再開のライセンス決定を見送り、トランプ米大統領が中国と通商政策で合意する用意はできていないと述べたことで米中関係悪化懸念が再燃した。個別銘柄では鉱業のアルロサ (5.1%安)、鉄鋼のノボリペツク製鉄所 (3.2%安)、石油のロスネフチ (1.7%安) などが指数を押し下げた。今週は米中貿易・通貨安戦争の行方をにらみ神経質な展開か。

▼指数チャート



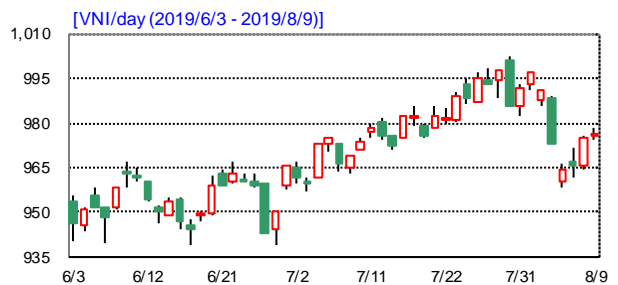
【ベトナム】 ベトナム指数は 1.7%安と続落、今週は米中関係悪化でリスク回避継続

続か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.7%安と続落。米中貿易・通貨安戦争への警戒感から週初に大きく下落した。週明け 5 日に指数が前営業日比 1.8%安、6 日は 0.9%安と続落した。前週末のトランプ米大統領による対中制裁第 4 弾の発動表明を受け、中国が米農産物の買い付けを停止し、人民元安も進んだことで米中貿易・通貨安戦争の激化懸念が強まった。その後は人民元安の一服や中国の好調な 7 月の輸出統計を受けて買い戻され、下落幅を縮小。ただ、米政府が米企業のファーウェイとの取引再開を先送りした影響で戻りは限定的だった。指数は 6 日の場中に約 1 カ月ぶりの安値となる 958.39 ポイントに下落したが、9 日には 974.34 ポイントまで戻して週の取引を終えた。今週は米中貿易・通貨安戦争への警戒感からリスク回避が継続か。

▼指数チャート

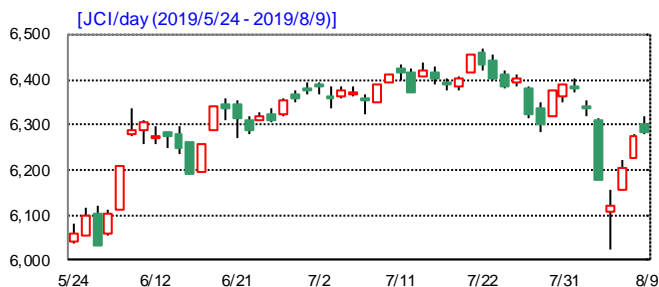


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%安、4-6 月期の GDP は 2 年ぶりの低成長

ジャカルタ総合指数は週間で 0.9%安と反落。週後半に反発したが補えなかった。週初の 5 日は 4-6 月期の GDP 成長率が前年同期比 5.1%と 2 年ぶりの低い伸びとなった影響で指数は前営業日比 2.6%安。6 日も金融株を中心に売り優勢の展開が続く、終値で約 2 カ月ぶりの安値を更新した。一方、7 日は中央銀行幹部が今後も金融緩和政策を継続する意向を示したことが好感され、前日比 1.4%高と 5 営業日ぶりに反発すると、8 日はさらに 1.1%上昇。結局、9 日まで 3 日続伸して取引を終えている。今週は 15 日に 7 月の貿易統計が発表される予定で、貿易収支が 3 カ月連続で黒字を維持すれば株式相場の追い風。

▼指数チャート

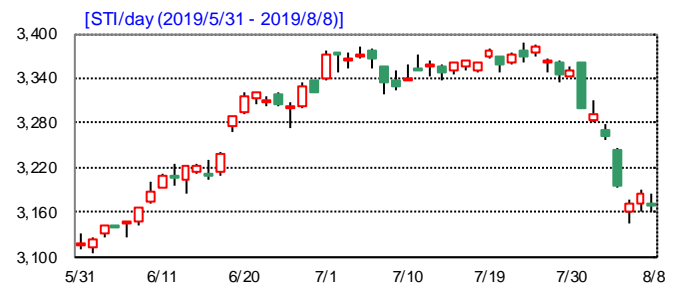


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.8%安、米中対立激化を懸念

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 2.8%安と 3 週続落。買い材料に乏しく軟調な値動きだった。週初の 5 日は、前週末の取引終了後に発表された 7 月の製造業 PMI が 49.8 と 4 カ月ぶりに前月の水準を上回ったものの、米中関係の悪化が懸念され、指数は終値ベースで前営業日比 2.0%安。6 日は米財務省が前日に中国を為替操作国に指定した影響で売られた。7 日は人民元安が一服した効果で 6 営業日ぶりに反発したが、連休前の 8 日は再び反落して引けている。今週は 13 日の 4-6 月期の GDP 確定値に続き、16 日には 7 月の非石油地場輸出が発表される予定。12 日はハリヤヤハジ（聖地巡礼祭）のため休場。

▼指数チャート

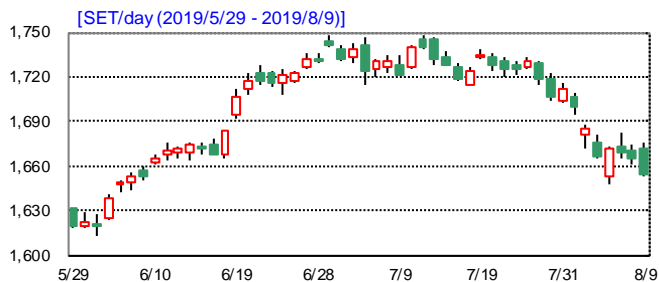


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0%安、中央銀行が 4 年ぶりの利下げを決定

SET 指数は週間で 2.0%安と 3 週続落。外部要因が指数下落を主導した。週初の 5 日は為替相場が人民元が約 11 年ぶりの安値となり、米中関係の緊張が一段と高まるとの警戒感から売られ、指数は前営業日比 1.1%安と 3 営業日続落。7 日は 4-6 月期決算が好調だった通信大手のアドバンスト・インフォ・サービスが指数上昇をけん引して反発したが、8 日は中央銀行による予想外の利下げが好感されたものの、原油価格が下落した影響でエネルギー株が売られ、指数は小幅に反落した。その後も下げ止まらず、9 日には終値で約 2 カ月ぶりの安値を更新している。今週は 12 日が母の日（王妃誕生日）の祝日で休場。

▼指数チャート

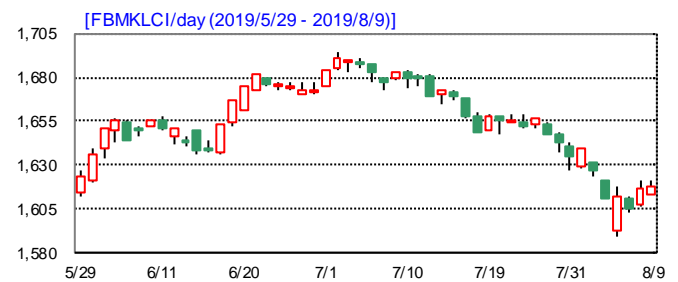


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.7%安、今週は 16 日に 4-6 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.7%安と 5 週続落。一進一退の不安定な値動きだった。週初の 5 日は人民元安を背景に、マレーシアでも米ドル高リング安が進んだことが嫌気され、指数は前営業日比 1.0%安と続落。一方、6 日は通貨安の効果でゴム手袋大手トップ・グローブなどの輸出関連株が買われ、小幅に反発した。7 日は終値ベースで約 2 カ月ぶりの安値を更新したが 8 日には反発。ただ、9 日は引け際の売りが響き、反落して引けた。今週は 16 日に 4-6 月期の GDP と 7 月の CPI が発表される予定。前年同期比の GDP 成長率は 4%台を維持すると予想されている。12 日はハリヤヤハジのため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。